

「2019年中国・浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部2年 町田亜優

① 今回のプログラムに参加して(学習成果について)

今回のプログラムは2週間という短いものでしたが、私は多くのことを学ぶことができました。その中で私が最も衝撃を受けたことは、海外の大学生は私たちよりもはるかに英語と中国語ができるということでした。日本人学生は会話形式のクラス分けテストを受け、それぞれのレベルに合った留学生クラスに入れられました。授業は主に中国語、たまに英語も使われました。クラスメイトは同じレベルにいるはずなのに、先生の中国語をよく聞き取り中国語を話すことも上手で、私は本当に驚きました。しかもクラスメイトは中国語学習歴が数か月という人がほとんどでした。私は専門として中国語を勉強してきたわけではありませんが、果たして中国語学習歴2年とっていいものか、とても迷いました。またクラスメイトの半数以上は韓国や東南アジア出身であるにもかかわらず、みんな英語をペラペラと話していました。海外の学生と私でどうしてこんなに違いがあるのかと、私は衝撃を受けました。しかし、日本人学生にも英語や中国語をスラスラと話す人がいたので、これは自分自身の問題でした。

2週間だけ海外行って意味あるの?と知人に言われたことがあります。私も2週間で語学力が格段に上がるとは思っていません。しかし、自分と周りのギャップを痛感して刺激を受けただけでも、このプログラムに参加した意味があると思います。英語も中国語もできなければクラスメイトや先生、町の人とコミュニケーションできないのですから、今回の経験は私の外国語学習に対するモチベーションの向上につながりました。また新しい友人が増えたことも、このプログラムに参加してよかったと思えることの一つです。来年度から大学での語学の授業はなくなりますが、友人と一緒に目標を立てながら、外国語の学習を続けていこうと思っています。

② 現地での経験について(海外での経験について)

中国はとにかく物価が安くて、特に学食では150円ほどでおなかいっぱいまで食べることができました。土日には杭州を離れ、上海や蘇州を観光しました。蘇州の運河沿いを歩いた時に、発展した都会での生活とは違う、水辺にすむ市民の日常生活を垣間見たことが印象に残っています。浙江大学で学生証を発行してもらいましたが、中国では学生証を提示すると入場料が半額になります。私も庭園を観光するときなどに、この学割を利用しました。中国では電子マネーが非常に普及しており、町で現金を使っている人をほとんど見かけないほどでした。現地の料理を食べて、文化に触れ、現地の生活を感じる、本当に濃い2週間でした。

③ プログラム内容について

午前中はそれぞれのクラスで中国語の授業を受けました。口語、語法、リスニングの授業がありました。午後は博物館や企業を見学したり、浙江大学のボランティアの方と食事に行ったり、自由行動で杭州の町を散策したりして過ごしました。杭州の特色を知る機会が豊富にあり、西湖龍井茶や絹織物、パール産業など多くのことを学びました。

④ 進路への影響

私は大学を卒業した後は民間企業に就職する予定ですが、このプログラムを通して、英語や中国語ができないと仕事を円滑に進めることができないという危機感を覚えました。他の留学生は半年または1年間浙江大学で勉強するという学生がほとんどでした。2週間で終わるころには、私は他の留学生をうらやましく思うようになっていました。私もみんなと一緒に浙江大学に残って勉強したいと思いました。日本に戻って中国語を自然に使う機会は減ってしまいましたが、浙江大学のクラスメイトに負けないように中国語と英語の勉強を頑張りたいと思っています。

最後になりましたが、支えて下さった先生方、参加者の皆さん、浙江大学の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。